

せわやかにカラ情報

一隅を照らす十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

七月…ためらうことなく

十島村教育長 原口 英典

やがて一学期の終業式を迎えようとしている。交通手段がフェリーだけの島へ、初めて赴任してきた先生方。教壇に立つのが初めての若き教師の卵たち。この村の学校に、初めて入学・転入してきた子どもたち。

それぞれにとって、この「初めてづくしの体験」の一学期には、どのような意味が刻まれたであろうか。まだ見ぬ出会いに感動しきりではなかったか。

ところで、この19、20日には「教員採用試験」がある。受験する本村勤務の先生方は、子ども等とともに複式学級や、また、臨時免許状も取得しての授業づくりにおいて、「教える」ことの楽しさもあることながら、「教える」ことの真の難しさにぶつかったり、自問したりの日々も潜ったのでは。人並み以上の苦悶を味わった彼らならばこそ、「教師になりたいという夢」を現実化してほしい。苦に耐え、煩に耐え、礼を知れる人間こそ、子どもの前に立ってほしいと切に願う。

「教える」と言えば、その「復権」が提起されている。「教えることの復権」だ。学校教育、家庭教育、社会教育にあって、学びの主体者（子ども）の基本的な構えが、「生きていくための力（生きた力）をつけたくて、希望に燃えている魂そのもの」だとするとき、学びを提供する側にある者は、本質的には、「教える」ことを躊躇することなく、「教える」ことに誇りを持つ存在であるべきだろう。「教える」ことで目の前の子が、自分の持てる力（潜在力）を出し切ろうともがく。大村はま先生によれば、「教えひたる。学びひたる」関係の音が、「優劣のかなた」で、教室に響き渡る世界だ。

「教えること」は、単に「教えの指導力」ともややニュアンスが違うようにも思われる。「教えること」とは、教えのテクニック（技術・教え方）を超えて、子どもの心に、魂に灯をともしること、成長の実感を味わわすこと、具体的にほかならない。

改めて、「教えること」の復権が、学びの場に求められているのでは。一学期を終えるに当たり、また、二学期を迎えるに当たり、自らの立ち位置を確認したい。

杉山に杉の雨降る夏休み(伊藤 通明)



☆県立図書館から移動図書館開始☆

まもなく、十島村の各島々に県立図書館がやって来ます。7月下旬には、各島へ50冊程度（段ボール箱2箱）の本（児童・生徒用1箱、成人・幼児用1箱）が届きます。8月末から次の島（南の方へ）へ一月毎に移動していきます。セブンアイランド移動図書とは少し移動期がずれるかもしれませんが、来年の2月までに各島に約300冊をお届けすることになります。ただ、来年3月には、また県立図書館へ返却することになっていますので、学校で保管してもらうこととします。是非、セブンアイランド移動図書と同様、利用記録簿に「借りた日」「返した日」を記入していただきながら、積極的に利用されることを期待しています。

シリーズ—十島の学校にやってきて



平島小学校6年 大関 沙羅

今年の1月に、私は平島に来ました。2年前に、兄が1年間山海留学生として平島で過ごしていて、「また、行きたい。」とずっと言っていました。今回、兄が行けることになったので、私も一緒に行くことにしました。平島での生活は楽しいです。そのわけは4つあります。

一つ目は、平島に来てまだ不安で緊張している時に、学校の人たちがすぐ話しかけてくれて友だちができたことです。

二つ目は、島民の皆様がとてもやさしくて、魚や食べ物などをいろいろもってきてくれるのがうれしいです。

三つ目は、最近、無人販売所ができ、じゃがいもや玉ねぎ、大根などが置いてあり、登校の時に何を売っているのか見るのが楽しいです。

四つ目は、トビウオすくいです。網ですくってクーラーボックスに入れます。うろこが手にいっぱいつくのがおもしろいです。

これから、運動会や夏祭り、カセグウチなどがあるので、楽しい思い出をたくさんつくっていきたいです。

シリーズ—山海留学生として学ぶ



愛知県立豊川高校1年 久保田 優也

(平成26年3月平島中学校卒業)

僕は、この1年間平島で生活をしていました。最初のうちは、島のことや学校のルールなどわかりませんでした。しかし、周りの友だちが優しく島のことについて話してくれました。その時、平島の人々は、みんな優しいということが分かりました。僕が島に来た理由は、勉強のためです。勉強が苦手で、テスト週間の時も勉強しなかつ

た僕が、島ではちゃんと勉強をしたり、分からない所があればすぐに先生に聞いたり、勉強に取り組むようになりました。テストの結果もよくなり、平島に来てよかったと思いました。一番の思い出は、みんなのお別れ遠足です。あいにくの雨でしたが、体育館でバスケットボールやサッカーをして、みんなと楽しく触れ合うことができました。2番目は、運動会で団長となり、優勝できたことです。このたくさんの思い出を忘れず、高校に行っても、何事にも全力で取り組みたいと思います。平島では、福德神といって、神に泥を塗られるカセグウチという行事も体験しました。愛知に帰ったら、友だちや親にこの話をしたいです。



◇人権同和問題啓発強調月間◇

平成25年9月、国において「いじめ防止対策推進法」が施行され、社会総がかりで、いじめ問題に対峙し、いじめ防止等のための取組がなされているところだ。

今、偏見や差別、いじめのない明るい社会の実現のために、人権の意義や人権尊重の重要性について正しい認識を持つことが必要です。そこで鹿児島県は、県民が様々な人権問題に触れ、自らもその課題解決の主体であるという認識を深めるために、8月1日から31日の1か月間、次のような啓発活動を行います。是非、放送や広報に積極的に触れて、お一人お一人考えてみましょうか。



- 1 テレビスポット、ラジオスポットの放送
- 2 新聞広告による広報
- 3 インターネットバナー広告（南日本新聞社HP）による広報
- 4 ポスター、パンフレット等による広報

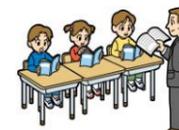
【子どもたちの作品①】

本当の優しさ (2014.4. 南日本新聞「ひろば」欄に掲載)

平島中諏訪之瀬島分校3年 伊東 聖真

みなさんは、優しい先生ってどんな人だと思いますか。僕の知っている中では、ほとんどの人が「宿題が少ない人」と言います。僕も小学生まで、あるマンガに出てくるキャラクターのような先生がいたらいいなあ、と思っていました。しかし、僕は中1の時、ある先生に出会ってから考えが変わりました。それまでは、宿題が増えて「めんどくさいな。もっと少なくしてくれる優しい先生はいないのかな。」と思っていました。

そんなある日、先生が「今日は宿題を追加します。」と言いました。それと同時に「俺は優しいだろ。」と言っていました。先生がわざわざ自分たちのために宿題を作ってくださっていると考え、さっきまで思っていたことがばかしくなっていました。僕はそこで、本当の意味の「優しい先生」を知ることができました。それからは、宿題を追加されても「自分のためだ。」と思うようにしています。僕はそういう優しい先生に出会えて本当によかったです。これから、自分も優しくなれるようにしていきたいです。



【子どもたちの作品②】

悪石島に来て

悪石島小学校5年 久永 太陽

僕は、悪石島に来たばかりのころは、島での生活は初めて、山海りゅう学生も初めて、店のない所も初めてで、何もかも不安でした。1か月もすると、友だちと遊ぶことも、店がないのも、りゅう学生というのも、意識せずに当たり前になりました。

それから1か月がたちました。お母さんが島に来て、また、かんきょうが変わりました。でも、今度は逆に家族と会えたので、とてもうれしかったです。悪石島に来て、島民の方々とたくさん助け合い、たくさんお話しをしました。友だちとは、人数も少ないので協力し合い、いろいろなことに取り組みました。



県指定無形民俗文化財 ポゼ

僕はこの島が好きです。だからこそ、この島に一生住みたいです。

十島村の小・中学校からのメッセージ ⑩

口之島小学校 教諭 本石 智子

口之島の評価は、私の周りではこの3年でうなぎ上りだ。毎年この豊かな自然環境や優しい島民のファンが確実に増えている。先日は、前任校で1年生の時に受け持った児童がGWを過ごす地を選んでくれ、海に山に一緒に遊びまわった。野生牛やトカラヤギの子どもを何十分も観察したり、自然の中に作られたプールでコチを追いかけ手で捕まえたり。「平和って口之島のような環境をいうんですね。僕はそれが分かりました。」出かける先で出会う島民の誰もが気軽に声をかけて、海から上がって寒い時に、焼き肉をごちそうしてもらったこと、ケガを治療してくれた診療所の看護師さんのこと。その子は、この島をテーマに平和に関する作文を書き上げた。「あるもので学ぶ。ないものは工夫して創り出す。」「時には上手な諦め方が必要」離島での経験を持つ先生にそう教わった。おかげで「あれがない、これがない。」と時間を浪費することなく、島の生活全体をアイデアで乗り切る方法を編み出すことができるようになった。子どもたちも「友だちが少ない、遊ぶ場所がない。」ということもなく、環境の中で創造力を働かせるところがあり、感心することが多い。笑いの絶えない職員室、ボランティア精神に溢れた地域の取組、全島で学び合う十島村教育会等、私の世界はむしろ広がりを持つようになったと実感する。

前任校を出る時に、「大航海時代がやってきた！」と見栄を切って出てきた。(ある海賊マンガが流行していたので)。広い海を見て漕ぎ出したくなる…。遠くに見える島を見てつながりを求めたくなる…。たくましくなるばかりのトカラ航海の日々である。

教職員仲間である「あなた」への私からのメッセージ

複式学級、多学年の指導、小・中連携など学ぶことが多く、1年間あっという間に過ぎます。思ってもみない自分の一面、島と共に生きる感覚を是非知って欲しいです。